

## ①産業廃棄物の性状が不明の場合、処理方法を定める為の試験を行っている

性状が不明な廃棄物は受入しないが、そのような物があれば ICP 分析装置等を用いて性状及び現在の状態を特定し処理方法を定める

## ②処理作業者に化学物質の性状等に関する教育を実施している

産業廃棄物として化学物質を扱う部署はないが、そのような物があれば 統括責任者が教育を行い処理をする

## ③受入ヤード等では重機類等との接触防止策を講じている

収集運搬業者からの受け入れはいたしておりませんので、自社での回収のみとなります、搬入に関しては1台ずつ順番に荷卸しをしているので 車両が2台以上搬入場所に入ることはなく、搬入中はフォークリフト等の重機も入って来ません

## ④焼却炉や機械への投入時に事前に危険物の有無を確認している

焼却炉や破砕機へ投入する際に目視でわかる物(透明なビニール袋にスプレー缶が入っているなど)があれば取り除いて処理しています  
当社は、受け入れる廃棄物の多くは感染性廃棄物なので、その中身は確認できません

⑤騒音下での機械運転中、作業中の連絡方法を取り決めている

連絡用の携帯電話が7コールで出ない時は、直接焼却炉や破砕施設へ行き連絡する

⑥保管場所のパトロールを日々実施している

毎日朝夕の最低2回は保管場所を確認している

⑦運搬車を用いて直接投入する場合は投入部に十分な高さの車止めがある

搬入車を用いて直接投入することはありません

⑧プラント運転開始時には全員の配置を確認してから行っている

各処理施設の規模は大きくなく、運転開始時は2名で行っている  
また、2名のお互いが確認できる場所で作業を行っている

⑨機械の異常停止時には機械を停止してから処置している

破砕機等の異常停止時にはブレーカーの入電を切ってから作業をするが  
焼却炉の場合はサイクロンを止めると炉内に損傷を起こす恐れがあるので  
機械を止めることなく作業をするが必要な場合もある、異常停止の復旧は2名以上  
で行うように決めている

## ⑩機械停止時に第三者による不意の稼働を防止する措置を取っている

機械のスイッチに現在復旧作業中であることが分かるように表示して誤って電源等を入れないようにしている  
また、社内にいる従業員も少ないので口頭で修理中であることを伝えて二重の安全策を取っている